

平成 30 年度 県内就職につながる学びの場づくり支援事業

「新潟県の産業・企業を知る講座等」報告書

1 地域振興論（知る講座）

職業選択の視野を広げることを目的とし、いくつかの企業に訪問した。新潟県に本社を置きながら世界的に販売シェアを伸ばす「株式会社スノーピーク(製造・販売)」では、ITCを活用した社内システムおよびオープンな職場、効率的な工場のラインを見学し、さらに売り上げを伸ばし続ける裏にある会社および社員の信念を学んだ。成長著しいロジスティックスの分野として「マルソー株式会社(流通)」を訪れ、普段は意識することが少ない物流分野への理解を深めたほか、地元、柏崎市の建築会社である「阿部建設」では、建築業界の“面白さ”を感じることができた。そして、留学生を中心に訪れた「朝日酒造株式会社」では、酒蔵の見学を通して日本の酒造りの奥深さを知ることができた。

(1) 日程等

(2) 参加学生数

延べ 602 人（講義登録学生数 61 人）

実施日	内 容	担 当	参加学生数
9/21 (金)	新潟産業大学「新潟の産業・企業を知る講座」の概要について	新潟産業大学経済学部 助教 郷 香野子	26
9/28 (金)	柏崎の観光事業・行政の仕事	柏崎市産業振興部商業観光課 課長代理 曾田 博文 氏	40
10/5 (金)	海の観光	朽堀 耕一氏 小竹屋旅館【宣伝・SNS担当】ご当地サイダー「鯨泉」制作委員会バドラーズ・パラダイス柏崎企画・準備室長	34
10/12 (金)	ワーク・ライフ・バランス 基本の「き」	新潟県産業労働観光部労働雇用課 主査 関 花恵 氏	41
10/26 (金)	スポーツ・ツーリズム産業	PVK株式会社 代表取締役 社長 入澤 勇太 氏	48
10/31 (水)	【見学】株式会社スノーピーク		93
11/2 (金)	十日町市 大地で輝く移住女子 新規就農への挑戦	かなやんファーム代表 十日町市農業委員 佐藤 可奈子 氏	47
11/9 (金)	フィンテック革命 ～デジタルで気付く銀行新時代～	株式会社 北越銀行ダイレクト チャンネル推進部部长 小林 幹央 氏	45
11/10 (土)	【見学】マルソー株式会社		68
11/16 (金)	株式会社ブルボン企業紹介・企業のCSR活動	株式会社ブルボン統合企画部 CSR統合推進室室長代理 小保方 薫 氏	45
11/23 (金)	ものづくりの歴史と企業誘致	柏崎市産業振興部 ものづくり振興課課長 井比 孝広 氏	45
11/30(金)	【見学】(株)阿部建設		58
12/19 (水)	【見学】朝日酒造株式会社		12
延べ参加学生数			602

2 まちづくり基礎（企業見学）

新潟県内の地域の資源を活かした新しいビジネスを立ち上げた個人や団体を訪ねて、事業立ち上げまでのプロセスや（行政からの補助金の活用なども含む）、苦労話などを伺い、学生たちが県内で新しいビジネスを立ち上げる、また先行してビジネスを展開している団体等に参画、就職することを選択肢の一つとして考え、行動をおこすことに繋げることを目的に実施。

（1）7月12日（木） 海辺のキッチン倶楽部「もく」

参加学生数：12名

かつては夏には大変賑わっていた笠島海岸も、今では浜茶屋が1軒だけ。地域の方が気軽に集まれるお店がほしいと考えた黒崎朝子さんは、築110年の歴史を持つ蔵を改造し、市の補助金制度なども活用しながら、地域の方に教わった伝統料理を提供できる小さくても地域に寄り添うお店をオープンした。高級品とされる笠島もずく汁や味付けえごといった海藻を中心とした特製ランチは、若い学生にはあまり馴染みのないメニューだったが、素材を活かしたやさしい味付けで、留学生も含め、皆が美味しくいただいた。また、創業にあたって活用した行政の支援制度等興味深いお話を伺い、学生たちは起業をしたい人のための制度と、それをどのように活用しながら独立につなげていくかを学ぶことができ、小さな店舗経営やコミュニティビジネスに興味のある学生には具体的なアクションの起こし方について理解を

（2）7月26日（木） フルサット

参加学生数：13名

口頃まちづくり関係の字首や活動では、相崎の美情も反映し、「かつては賑わっていた地域に活気を取り戻す」といった問題意識からスタートすることが多いが、今回訪れた「フルサット」は北陸新幹線開通に伴い、新設された上越妙高駅西口に位置する「フルサット」の魅力を凝縮した商業施設である。新幹線駅の乗降客に注目し、新たな賑わいを創出することを目指している。コンテナを活用した店舗は、コンパクトなスペースながらもそれぞれ趣向を凝らした個性的な飲食店やお土産物店ばかりで、現在は8店舗が営業している。学生たちは施設の魅力を満喫している様子でしたが、まだまだ限られた店舗数なので、どのような店舗が増えると良いかなど、アイデアを出し合っていた。新たな賑わい創出に挑戦する取り組みに県外や首都圏からの視察も多いそうである。学生たちはこうした新たな取り組みを学ぶことで、個性を活かし、地域に密着した内容の飲食店や土産店の経営、そして、こうした意欲的な小売店を取りまとめるコミュニティビジネスの可能性について考える契機となった。

3 金ゼミナール（企業見学）

本学経済学部のアグリ・フードビジネス分野のゼミナールとして、新潟県内の食品・農業の実態を知り、この分野の産業とかかわりの深い企業と地場物産の流通の拠点である道の駅の現場等を体験することによって、県内の地場産業に理解を深め、地域でのインターシップや就職活動につなげることを目的に実施。

（1）日程等

①実施日：8月3日（金）参加学生：15名 訪問先：十日町市のゆきぐに森林組合松之山なめこ工場、ぶなの美人林、ハーブティー生産者、越後妻有里山現代美術館キナーレ、道の駅クロステン

②実施日：10月13日（金）

参加学生：6名 訪問先：鎌田養鶏株式会社西山農場、道の駅西山ふるさと公苑、道の駅良寛の里わしま、道の駅越後出雲崎天領の里、日本海石地わさび園

（2）効果等

アグロフード分野を研究するゼミナールとして、県内のさまざまな「食」にまつわる施設や企業、そしてそれらを活かした地域活性化とはどのようなものかを考える良い機会となった。ゼミナールであることから、3・4年生ということもあり、食に関係する分野への就職に興味を持つことは当然であるため、実際にこれらの業界の一端に触れることで、さらに意識が高まったと感じる。

アンケートでは「県内企業への興味や関心が高まった」、「県内企業をもっと知りたい」といった回答が多く、今後はさらに地元を知ることができるよう、積極的に情報を発信しつつ、実際の現場に多く足を運び、理解促進につくしたい。

4 キャリアデザインⅡ・Ⅲ（先輩との懇談会）

2年生及び3年生を対象に、県内で働く同世代の本学OB・OGをパネリストとして招き、大学時代の就職活動から現在の社会人に至るまでの彼ら自身の体験談を通じて、企業の魅力や就職活動の本質を理解することを目的に実施。

（1）実施日 10月23日（火）

（2）参加学生数 2年生 37人、3年生 28人

（3）講師

所属	氏名	卒業年
①（株）AOKI	羽深 圭希 氏	（2017年卒）
②柏崎市上下水道局	木村 栄記 氏	（2015年卒）
③岡谷酸素（株）	行田 裕平 氏	（2015年卒）
④新潟日産自動車（株）	山崎 紗穂 氏	（2015年卒）
⑤ホシザキ北信越（株）	竹股 亜希子氏	（2014年卒）
⑥柏崎市信用金庫	高橋 真理恵氏	（2011年卒）

5 キャリアデザイン（留学生向け）（大学独自の取組・企業見学）

少子高齢化による人口問題が日本全国で取り上げられている。新潟県内も例外ではない。年少人口や生産年齢人口の割合が低下し続け、こうした人口減少・超高齢化により、経済や社会にひずみが生じてくるおそれがある。特に、生産年齢に繋がる若者の県外へ流出が、なお拍車をかけているのが現状である。このような現状を少しでも改善していくためには、外国人の受け入れを増やし、外国人雇用の拡大に繋げ、生産年齢を補う方策として取り組むのも手立てのひとつと考える。

については、本学留学生を対象に、市内企業の現地研修を実施し、企業の事業実態等を知ること、県内での就職活動を促すことを目的に実施

(1) 企業見学

①実施日 8月3日(金)

②参加学生数 18人

③訪問先

(株)ブルボン本社 ※12月5日にも柏崎工場を見学 参加学生26人

(株)阿部建設

④効果等 参加者のすべてが留学生である中、事前アンケートでは「就職希望企業あり」が1名であったが、事後アンケートでは同様の回答では4名に増えている。また、「県内企業を知る方法で有効なものは」という質問では、「企業見学」13名の回答が最も多かった。

これらのことから、実際に「見て知ること」が新潟を知り、理解することへ繋がっていると考えられる。

(2) 留学生向け講座(大学独自の取組)

①実施日 12月20日(木)

②参加学生数 31人

③講師 (株)マイナビ 新潟キャリアサポート課 比留間 健人 氏

④効果等

本学は留学生も多く在籍しており、日本(特に新潟)での就職を目指す学生も多い。実施後のアンケートでは、希望する就職先に県内を選択する学生が4人から13人に増加した。就職に対して継続した意識を保持できるよう、積極的に就職に向けた情報発信を行いつつ、見学、体験、講義を組み合わせるなど、創意工夫を凝らしていきたい。

6 社会保障論(企業見学(展示会参加))

新潟県も少子高齢化が問題となっており、それらに関係する企業や団体も人材不足となっている。新潟県内においても、一見するとそれらの分野と何ら関係ないと思われる企業や団体も実はそれらに関係するサービスや製品開発を行っている。

今回の取り組みは就職活動を控えた3年生を主な対象とし、介護や医療への正しい理解を促進するとともに、多くの県内企業・団体やそのサービスと製品等を知ることにより、学生たちの視野を広げ県内への就職につなげることを目的に実施。

①実施日

11月18日(日) (新潟会場) 参加学生数:13人

12月2日(日) (長岡会場) 参加学生数:11人

②訪問先:福祉・介護・健康フェア

③効果等

本フェアは、医療、介護、予防・健康、生活支援、口腔ケア等の分野ごとに出展ブースが配置されており、学生たちは限られた時間のなかで各ゾーンに行き多くのブースを積極的に訪れていた。その結果として、王子ホールディングス(株)、新潟トヨペット(株)、(株)第四銀行、生活協同組合コープにいがた、日建リース工業(株)、セコム上信越(株)など、いわゆる有名企業や知らなかった企業も含め、それらの企業や団体も新潟県内にて福祉・介護・健康分野のサービスや製品等に関係しているという新たな発見があった。また、新潟県内のあまり知られていない企業や団体においては、その存在とともにサービスや製品を知ることができ興味関心を持ったようである。

7 コンテンツ産業論（企業見学）

新潟県の特徴的な文化、産業の一つと言われる「マンガ」に関する歴史、資料などに触れ、日本のコンテンツビジネスについての理解を深め、マンガやアニメに直接、間接的に関係するビジネスの可能性について考える契機とすることを目的に実施。

①実施日 2月7日（水）

②参加学生数 11人

③訪問先 新潟市マンガの家、新潟マンガ・アニメ情報館

④効果等

参加学生の中には実際にマンガやイラストを日常的に描いてネット等で発表している者もあり、プロの使う道具の扱い方を学んだり、精密な原画を見ることで、マンガやイラストを職業にすることの意識が一層高まったようである。

また、自分で描くことはしない学生も、新潟県のマンガ・アニメ文化や産業の奥深さについて知り、さらには、こうしたサブカルチャー分野の公的な博物館があることは公務員志望の学生にとっても新鮮で、県内就職への関心が高まったようである。

8 金融論（県内企業で活躍する人材の講義）

柏崎信用金庫のこれまでの地域振興の取り組み事例を学ぶとともに、「柏崎生き残りプラン」を学生がディスカッションなどを通し考えることで、柏崎の魅力の再発見とその情報を届けるための具体的な手段を議論することにより、県内の企業の良さや魅力を知り県内就職につなげるため、柏崎や新潟県に関する理解を深めることを目的に実施。

①実施日 11月13日（水）

②参加学生数 32人

③講師 柏崎信用金庫 地域支援室 室長 山田 秀貴 氏

④効果等

金融論の授業であることから、地元の「金融業界」を知ってもらうことが第一であった。

受講した学生は3年生が最も多く、就職を意識する時期であるため、いつもにも増して興味を持って授業を受けていた。

受講者 32 名中、出身は県内 12、県外 20 であるため、事前アンケートでは県外への就職希望が 15 と多いが、事後アンケートでは「県内企業への興味関心」「県内企業をもっと知りたい」への回答が圧倒的に多くなったことが特徴である。

その要因としては、金融の仕事を紹介するだけでなく、大学のある地元「柏崎」がどうしたら活性化するか自ら考えることで、あらためて柏崎を見つめ直し、地域活性化に携わりたいと考える学生が増えたためであると考ええる。

このようなことから、普段は意識しない問題を発展的に考えることで地元への意識を高め、定着に結び付けたい。

加えて今後は地元企業を積極的に発信し、地元定着に結び付けたい。

9 教育方法論（県内企業で活躍する人材の講義）

新学習指導要領において新たに小学校で導入される「プログラミング教育」の基本的な考え方を知った上で、

実際の授業を想定したプログラミングソフトの活用方法を学ぶ。教職課程履修 学生に対して、教育改革の最新動向を実践的に学び、教員採用試験に向けての意欲を喚起させ、県内の中学、高校の教員としての就職者の増加を目指す。また、ソフトウェア開発やICT教育プログラムの提供等を手掛ける地元のIT企業への理解を深め、教員以外の就職先の選択肢として考える契機となることを目的に実施。

①実施日 1月24日（木）

②参加学生数 9人

③講師 （株）カシックス 斉木 太郎 氏

④効果等

プログラミング教育で大切なことは、プログラムを書き上げることに限らず、どういうルールで、どんな手続きをすると画面上のアクションにつながるのかといった法則性を見落としき出すことにあり、それこそが、必ずしもパソコンを使わなくてもできる「プログラミング思考」に繋がることを実感した。

本学では中学高校の免許しか取得できないが、こうした内容を小学校で学んできた子どもたちが今後中学生になると思うと、決して他人事とは言えない。目まぐるしい社会の変化に対応して、学校教育、そして将来の働き方が大きく転換している。そうした状況下で、今回は大変貴重な体験ができた。また、今回の講義は、必ずしも中学高校の教員を目指すための学びに留まらず、文系学部出身でも、地元のICT企業就職への関心を持つ、良い契機となった。